

第2回 福山市学校教育環境検討委員会 概要

【日時】 2025年（令和7年）4月30日（水） 18:30～20:30

【場所】 市役所本庁舎3階 中会議室

【出席】 委員19人（全員出席）

◎委員長、○副委員長

◎伊澤 幸洋	福山市立大学教育学部教授	橋本 秀基	福山市公立小学校長会会長
森 美智代	福山市立大学教育学部教授	新谷 陽子	福山市公立中学校長会
○佐々木 伸子	安田女子大学理工学部 建築学科教授	土利川 佳保	福山市保育施設保護者会 連合会会長
山岡 英樹	福山市自治会連合会副会長	小鼓 悠	福山市私立幼稚園PTA連合会
久保 辰己	福山市自治会連合会常任理事	菅田 雅夫	福山商工会議所副会頭
高杉 清志	福山市連合民生・児童委員 協議会副会長	金山 節津	市民公募
佐藤 正	福山市交流館長会幹事	亀山 マリエ	市民公募
野田 寿雄	福山市PTA連合会会長	佐藤 有香	市民公募
三木 智恵	福山市PTA連合会幹事	花谷 忠厚	市民公募
阿部 勉	福山市PTA連合会常任理事		

【概要】

- 1 教育長あいさつ
- 2 福山市学校教育環境検討委員会委員・事務局紹介（異動者）
- 3 報告・説明
第1回検討委員会の概要及び補足説明
- 4 諮問事項についての協議
これまでの取組を踏まえた今後の学校再編の在り方について
- 5 その他

委員から出された主な意見

■学校再編の在り方について

- ・学校再編の在り方として、義務教育学校の整備が大きなテーマと考える。
- ・義務教育学校の良さと課題について理解できたが、義務教育学校に勤務する教員の意見や考えを聞いてみたい。
- ・小中一貫教育を同じ校舎の中で実践する義務教育学校では、前期課程（小学校段階に相当）の教員は、後期課程（中学校段階に相当）の教員から専門的な指導法を学ぶことができる。また、後期課程の教員は、前期課程のときのこどもの実態を踏まえた、個に応じた指導・支援ができる。後期課程の教員が専科で前期課程の授業を担当することもメリットがある。
- ・小学校から中学校への進級時には、こども一人一人の状況について情報を共有するなど、教員間で連携をしているが、義務教育学校は、職員室が1つで、教員間の情報共有や連携した対応を日常的に行うことができる。こどもにとっても、多様な教員に出会うことができる。
- ・他市の義務教育学校で、居心地の良い集団に変わっていくための研修の在り方などについて、前期課程の教員と研究しているが、前期課程の教員は学級集団づくりや授業づくりのレベルが高く、後期課程の教員は学ぶことが多いのではないかと思う。
- ・小学校は学級担任制で、教員は担当学級のこどもたちに常時接しており、個に応じた声かけ

など、こども理解が基盤にある。中学校の教員は、担当教科の専門性が高い。どの中学校区においても小中一貫教育を通して、教員は互いの良いところを学び合い、切磋琢磨し合っている。そのような中、小学校と中学校の両方の教員が一緒にいる義務教育学校は、こども一人一人を多様な教員が見て関わり、相談しながら授業づくりもできるため、より効果があると思う。理想的な教職員集団と言える。

- ・一方で、小・中学校が別であれば、中学校入学で環境が変わり、気持ちをリセットできるという良さがある。
- ・義務教育学校同士の研修やそれぞれの学校の取組の情報発信・普及に加えて、義務教育学校に勤務したことのない教員への研修や教員間の交流もあった方がよい。
- ・義務教育学校に期待が持てるので、予算を含めた条件が整うのであれば、整備を進めていけたら良いと思う。義務教育学校では、過小規模校では得られにくい活動など、こどもたちがより豊かな教育環境の中で学んでいけると思う。
- ・義務教育学校の整備の方向性について、多くの人に納得してもらうためには、義務教育学校でこどもたちにどのような力が付くのか、客観的なデータがあれば説得力が増し、議論が進むと思う。
- ・客観的なデータとして、学力テストの結果は、学校の規模の違いなどから比較が難しい。数字だけを比べることは、本質を見誤るので行わない方がよい。
- ・学校を再編することにより、設備的にも予算を集中できるというメリットがある。想青学園では3Dプリンターなど先進的な機器も導入している。実際に見ると良さがよく分かるので、この委員会で見学会を開いてもいいと思う。
- ・広域からの通学は負担はあると思うが、海外ではスクールバス通学はめずらしいことではない。安全面において、スクールバスでの通学も良いと思う。
- ・多様性の時代だからこそ、義務教育学校、イエナプラン教育校、特認校、中高一貫校、私立学校など、学校の選択肢が多くあることは理想的である。そうした観点も、義務教育学校を増やしていくことと併せて必要である。
- ・中学校区よりさらに大きなエリア（東部、西部、南部、北部、中央部など）で捉えて、学校を選択できると良いのではないかと。現状においても様々な選択肢があるのは福山市の素晴らしいところであり、その選択肢がより広がるとよい。
- ・希望する部活動がない、義務教育学校等を希望するなどの理由で、指定校以外の学校を選択するこどもが増え、小規模化が加速している学校・地域もある。南部地域にはこんな学校がある、北部地域にはこんな学校があるというように、福山市全体を考えて学校を配置できたら良いのではないかとと思う。
- ・福山市は、様々な校種、特色のある学校をバランスよく整備するなど、新しいことにチャレンジしてきた自治体だと思う。義務教育学校は全国的なトレンドだが、財政面などを理由に整備を断念する自治体もある。義務教育学校の整備をベースに、地域性を考慮した学校整備など、今後福山市がめざすべき学校配置の在り方について方向性を示すことが、本委員会に問われていることである。
- ・地域としては、再編後の学校跡地の利活用も気になる。全国の廃校となった学校施設の利活用事例を提示してほしい。

■教員の人材確保等について

- ・義務教育学校に適した人材の確保が必要となり、着任後の研修など、教員の負担も増えるのではないかと。
- ・教員の人材確保は、本委員会での議論内容に関わらず取り組まなければならない福山市の重

要課題である。サポート体制の構築と研修が急務である。例えば、義務教育学校化を見据えて、研修により中（小）学校教員が小（中）学校教員の免許を取得できるなど、教員が安心して働くことができる環境を整えたうえで、教員としてレベルアップしていく仕組みを同時に考えていく必要がある。教員を養成する大学での取組とともに、着任校でのサポートやケア、レベルアップのための研修制度が必要と考える。

- ・PTAに加入したくないという保護者の声も聴く。保護者や地域にも、学校、教員への理解やサポートを求めていく必要があるのではないかと思う。
- ・コミュニティ・スクールをスタートさせ、委員として参画しているが、教員の努力を、地域がどのようにサポートしていくかを考えながら話し合っている。
- ・自分には関係ないと思っている人たちにも、前向きに関わってもらえるような学校運営の在り方を期待したい。

■学校施設の在り方について

- ・学校再編後も少子化によりさらに児童生徒は減少する見込みであり、空き教室も増えてくると思う。市役所の他部署とも連携し、他の公共施設の機能を入れるなどの複合化整備ができればいいと思う。福山市の公共施設の再配置計画があれば示してほしい。
- ・学校施設の在り方を検討する上で、佐々木委員のお話を聴きたい。

■まとめ

- ・今後の学校再編の在り方について、義務教育学校の成果と課題等が理解できたことから、条件が整えば義務教育学校を整備していく方向性で検討していく。義務教育学校のメリットを補強するため、アンケート結果のデータや教員の声などをもとに議論を進める。
- ・そのために、義務教育学校についての情報発信や良い取組の普及、教員間の研修、人材育成などにも取り組んでいく。
- ・市全体で、多様な選択肢、地域性や地域バランスを考慮した学校整備、学校配置を検討する。
- ・市の他の公共施設との複合化整備等についても検討していく。
- ・コミュニティ・スクールなどを活用し、地域・家庭が学校運営を支えていけるようにしていく。

以上